

令和元年度第3回東北農政局入札等監視委員会 審議概要

(ホームページ掲載日:令和2年1月27日)

開催日及び場所		令和元年12月20日(金) 仙台合同庁舎A棟7階東北農政局会議室		
委員		大泉 裕一(公認会計士・税理士) 杉山 茂雅(弁護士) 渡辺 知毅(ジャーナリスト)		
審議対象期間		令和元年7月1日～令和元年9月30日		
審議対象案件		232件 うち、1者応札案件 53件 契約の相手方が公益社団法人等の案件 1件		
抽出案件		6件 うち、1者応札案件 4件 (抽出率2.6%) (抽出率7.5%) 契約の相手方が公益社団法人等の案件 0件		
抽出案件内訳	工事	一般競争	3件 うち、1者応札案件 2件 契約の相手方が公益社団法人等の案件 0件	
		指名競争	公募型指名競争	0件 うち、1者応札案件 0件 契約の相手方が公益社団法人等の案件 0件
			工事希望型競争	0件 うち、1者応札案件 0件 契約の相手方が公益社団法人等の案件 0件
			その他の指名競争	0件 うち、1者応札案件 0件 契約の相手方が公益社団法人等の案件 0件
		随意契約	0件 うち、1者応札案件 0件 契約の相手方が公益社団法人等の案件 0件	
	測量・建設コンサルタント等業務	一般競争	2件 うち、1者応札案件 2件 契約の相手方が公益社団法人等の案件 0件	
		指名競争	公募型競争	0件 うち、1者応札案件 0件 契約の相手方が公益社団法人等の案件 0件
			簡易公募型競争	0件 うち、1者応札案件 0件 契約の相手方が公益社団法人等の案件 0件
			その他の指名競争	0件 うち、1者応札案件 0件 契約の相手方が公益社団法人等の案件 0件
		随意契約	公募型プロポーザル	0件 うち、1者応札案件 0件 契約の相手方が公益社団法人等の案件 0件
			簡易公募型プロポーザル	0件 うち、1者応札案件 0件 契約の相手方が公益社団法人等の案件 0件
			標準型プロポーザル	0件 うち、1者応札案件 0件 契約の相手方が公益社団法人等の案件 0件
			その他の随意契約	0件 うち、1者応札案件 0件 契約の相手方が公益社団法人等の案件 0件
	物品役務等	一般競争	1件 うち、1者応札案件 0件 契約の相手方が公益社団法人等の案件 0件	
		指名競争	0件 うち、1者応札案件 0件 契約の相手方が公益社団法人等の案件 0件	
		随意契約(企画競争・公募)	0件 うち、1者応札案件 0件 契約の相手方が公益社団法人等の案件 0件	
		随意契約(その他)	0件 うち、1者応札案件 0件 契約の相手方が公益社団法人等の案件 0件	
	(特記事項) なし。			
	委員からの意見・質問、それに対する回答等		意見・質問 (詳細に記述すること。)	回答等 (詳細に記述すること。)
			別紙のとおり。	別紙のとおり。

委員会による意見の具申又は勧告の内容[これらに対し部局長が講じた措置]

なし。

事務局： 東北農政局総務部総務課

(注1)必要があるときは、各事項を著しく変更することなく、所要の変更を加えることができる。

(注2)公益社団法人等とは、公益社団法人又は公益財団法人(一般社団法人及び一般財団法人に関する法律及び公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律第42条第1項に規定する特例社団法人又は特例財団法人を含む。)をいう。

委員からの意見・質問、それに対する回答等

意見・質問	回答等
<p>&lt; 工事編 &gt;</p>	
<p>津軽北部二期農業水利事業 芦野揚水機場ポンプ設備改修工事</p>	
<p>改修工事、オーバーホールというのは、製造した業者が実施することが多いのか。</p>	<p>結果として多い。 ポンプの耐用年数は40年であるが、50年使用する場合もある。その間に製造した会社が倒産してしまうこともあるので一概には言えないが、今回は現製造業者が存在しているので結果として受注者となったと考えられる。</p>
<p>他の業者が受注した方が、優れた技術や効率が良いとか安価となるという可能性はないのか。</p>	<p>オーバーホールであるので、基本的に性能は変わらない。新たにポンプを造り変えるということであれば、新たな業者が入ってくることは大いに考えられる。</p>
<p>新たな者が入るためには、50年に1回しかチャンスがないのか。</p>	<p>今回は2機ともオーバーホールである。ポンプ部も含めて機能診断を実施し、使えるものは使うという方針で、できるだけ安価に抑えることで検討した結果、今回はすべてオーバーホールとなった。 施設の補修に当たっては、費用対効果を算定している。ライフサイクルコストにおいて、電気代などの維持管理費もかかるので、トータルとしてオーバーホールか又は新たな機材を導入するコストを比較して、トータルでの費用対効果を事業導入する際に検討している。 比較検討を行った結果、今回はオーバーホールが経済的であるため、オーバーホールとなった。</p>

<p>オーバーホールなので交換する部品もあると思うが、それは製造業者しか持っていないのか。</p>	<p>技術的には、他の業者も製造可能なので一概には言えない。</p>
<p>-----</p> <p>津軽北部二期農業水利事業 出崎機場ポンプ設備改修工事</p>	
<p>オーバーホール工事は製造業者が受注することが多いということだが、それはそれで、やむを得ないということか。</p>	<p>税金を使って国営事業を実施しており、地元負担もあることから、極力お金をかけずに、維持管理費も安くなるように考えて設計した結果、このような発注形式になった。結果としては、やむを得ないと考えている。</p>
<p>業者の荏原製作所は大手であるが、設置した時、荏原だけだったのか。</p>	<p>他のポンプ業者も多数あることから、ほかの業者も入札参加していると思われる。</p>
<p>たまたま2件（今回の抽出案件）荏原であったが、この種の工事は荏原しかないのか。</p>	<p>そのようなことはない。</p>
<p>-----</p> <p>横手西部農業水利事業 大宮川幹線排水路（その24）工事</p>	
<p>1者辞退者がいるが、その理由は。</p>	<p>市発注の別の工事を受注した結果、技術者が確保できなくなったので辞退したと聞いている。</p>
<p>あまり魅力のある工事ではなかったということか。</p>	<p>おそらく他の工事の方が良かったと考えられる。</p>
<p>工事をかなり分割して発注しているがその理由は。</p>	<p>非出水期の冬場に施工しなければならないので工期が限られている。1路線200mから300m程度が一定期間内のできる工事であるため、工区を分割している。</p>
<p>工事工程に見合った工事規模ということか。</p>	<p>そうである。</p>

<p>先程、同時期に同種工事が3件あったと説明があったが、3件合計で22者の応札者がいた。延べで22者であるが、3件ともだいたい同じ業者なのか。実数は。</p>	<p>複数の工事に応札する者もいるし、工事内容によって控える業者もいる。 実数ですとだいたいですが、半分程度になる。</p>
<p>他の3件の工事の落札率も同じように高いのか。</p>	<p>大宮川その22工事が90.9%、その23工事が90.3%、皆瀬4号幹線用水路その5工事が90.5%です。</p>
<p>他の工事は9者の応札があったようだが、本件が3者と少なかったのはなぜか。</p>	<p>本工事は分水工という煩雑な工事があったので、応札者が少なかったと考えられる。</p>
<p>他の工事が90%程度なのに、本工事だけ99%と高かったのはなぜか。</p>	<p>煩雑な工事であるため掛かり増し経費がかなりかかり、削減できるところが無いため高落札率となったと想定される。</p>
<p>工事区間の切り方によって入札率に差が出てくるのか。</p>	<p>一概には言えないが、配置技術者が早い時期に配置できる場合は、競争性が高くなるので、工事が簡易であればその工事を受注したい。そうなれば競争して安い価格で入札することになり落札率が下がってくることになる。 一般的に難しい工事であれば、あまり受注したくないと思われるが、年度の早い時期に工事を受注していない業者の場合、「今回どうしても受注したい」など考えることもあり、会社の事情や工事の難易度、受注時期による配置技術者など様々な要素があるため、一言では申し上げられない。</p>
<p>工事区間の切り方は200m、300mと長さで分けていくのか。</p>	<p>これも工事の難易度等によって区切り方は異なる。例えば排水路と用水路でも違ってくる。用水路では水を使わない時期があるので施工しやすいが、排水路は地域から水が流れてくるので施工が難しい。単に延長だけではない。 施工手間、水を使わない期間等を総合的に判断している。</p>

<p>&lt;測量・建設コンサルタント等業務編&gt;</p>	
<p>国営施設応急対策事業盛岡南部地区 盛岡南部地区現場技術業務</p>	
<p>他の業務と比べると落札率が高いが、特別な事情があるのか。</p>	<p>例えば地質調査などは、作業内容に応じた技術者を配置することになり、業者にとって得意な分野の業務であれば安価に出来る可能性があるが、この業務は技術者を1名だけ配置という業務なので判断の余地が狭い。</p>
<p>配置技術者の要件に資格や大学卒業後の年数等の記載があるが、この確認は証明書を出してもらうのか。</p>	<p>資格を持っている者については、コピーをいただいている。持っていない者の卒業後の年数については、会社の方から証明書を出していただいで確認している。</p>
<p>会社の自己申告を信用しているということか。</p>	<p>信用している。併せて会社で業務を実施しているので、その実績経験も出している。それで担保を取っている。</p>
<p>長期間拘束するという特殊な業務であるが、他にも多くあるのか。</p>	<p>事業所の職員は慢性的に不足しており、職員の業務補助をお願いする業務である。特殊な事例は事業所によって異なるが、例えば今年度は台風19号被害の復旧支援のため、職員を市町村支援に出して人員が不足している。</p>
<p>河南二期（一期）農業水利事業 赤井堀排水路他積算参考資料作成その他業務</p>	
<p>一者応札の理由は、9割が積算参考資料の作成で、1割が補足設計であり魅力の無い業務。このようなパターンの業務は応札者が少ないと事前に分かる訳ですね。 このような場合、応札者が多くなるよう工夫・検討はされるのか。</p>	<p>一般論になるが、極力、広く優秀な業者に来ていただきたいので、業者にとって魅力があるような業務を含める等の検討はしている。</p>

<p>参考資料の作成は、あまり技術力を生かす余地がないということ。それから図面の整理などで人手がかかるということだが、技術力を生かす余地があまりないのであれば専門的な業者に発注する意味はあまりなくて、職員で対応する余地はないのか。</p>	<p>もちろん職員で実施することも可能であるが、時期によって職員が実施する業務が集中したりするので、その場合は外注をしている。</p>
<p>このような業務は、常時多くあるのではないか。</p>	<p>年間通して多くある。工事についても多様な工事が箇所毎に多く点在している。加えて年度毎にも業務量は変わってくるので、それらに対応する職員をすべて確保することは望ましいが、人事配置も絡んでくるので難しい。</p>
<p>定員の関係もあるでしょうが、専門性があまり無いのであれば、人員にゆとりを持たして内部でやってもいいのかなと思う。</p>	<p>定員合理化の流れの中で、職員数にゆとりがなく、職員ができる仕事にも限界があるため、単純作業などは外注している。</p>
<p>このような業務は、余力があれば職員が対応しているのか。</p>	<p>最近では、積算参考資料は外注している例が多い。</p>
<p>専門家をお願いしなくても、責任者を置いて派遣社員で対応するとかはできないか。</p>	<p>何が効率的かという議論になるが、図面作成や工事の工法検討や構造計算もスキルがいる。コンサルはこれらのスキルを有しているのでお願いしている。</p>
<p>&lt; 物品・役務編 &gt;</p> <hr/> <p>小型乗用自動車 11 台の賃貸借</p>	
<p>11 台というのは、現在使用している車の上乗せか、交換か。</p>	<p>車の保有台数は、廃車を前倒しするなど削減しており、概ね 4 台に対して 1 台の交換である。</p>
<p>リース契約が切れるから今回の契約となったのか。</p>	<p>今までの車は購入で対応しており、購入後 12 年又は 10 万キロを超えたら必要性を踏まえて交換を検討している。</p>

<p>リース契約は初めてか。</p>	<p>今回初めてである。          国家公務員全体の定員合理化の話は常にあるが、特に支局においては、今後も定年退職等により人員が減っていくことも見込まれるが、業務で使用する車の配置は必要である。リースであれば柔軟な対応が可能となるので、購入からリースへの切り替える流れはある。</p>
<p>リース期間は5年で、その後見直すのか。</p>	<p>そうである。</p>
<p>トータルでは、購入するよりも1台あたりのコストが削減になるということか。</p>	<p>そうである。</p>
<p>参考見積は何者から提出されたのか。</p>	<p>2者である。</p>